

月例研修会 11月6-7日

東近江、安土・近江八幡を訪ねて

千載 輝重

毎年一度のお楽しみ一泊旅行。今回は、一日目は近江周辺の聖徳太子ゆかりの諸寺探訪、二日目は織田信長が夢に描いた天下統一の象徴でもある壮大な安土城を訪ねたのち、近江八幡市周辺散策・水郷巡り、宿泊は休暇村にて近江牛食べ放題、というまことに盛りだくさんのお楽しみ旅行である。6日8:30、参加者23名を乗せたデラックスバスは一路東近江の百済寺へ。

天台宗の湖東三山(金剛輪寺、西明寺、百済寺)の一つで、聖徳太子が百済の龍雲寺にならって建立したとか。



本尊は太子が立ち木のまま彫ったという一木造りの十一面観音で高さは2.5mほどもあるらしいが秘仏となっていて見る事ができない。お前立ち観音に手を合わせる。境内は山城の趣を残し、庭園は「天下遠望の名園」ということで、琵琶湖から比叡山はもちろんのこと、880km先には百済国が(意外と近い)。少し早い紅葉に未練を残しながら道の駅で軽く昼食。次の太郎坊宮へ。

バスの中から岩山の中腹に社殿が見える。阿賀神社が正式名で山に棲む天狗の名にちなんで太郎坊と呼ばれている。聖徳太子が崇め、祭神は天照大神の第一皇子で名前が正哉吾勝勝速日天忍穂耳大神「まさに勝った、私は勝った。朝日が昇るように鮮やかに、速やかに勝利を得た」ということから勝負の神とされている。大岩が多く中でも夫婦岩は壮大で善人だけが二つの岩の間(80cm)を通り抜



けることができる。幸い参加者には悪人はいなかったことにほっとして次の互屋禅寺へ。

聖徳太子が四天王寺建立のため、山中の霊土を使って互を作るために建てたといわれる。苔むした庭は紅葉との調和が素晴らしい。本尊の十一面千手千眼観音は聖徳太子が一刀彫したとされる秘仏でこの日は50年ぶりに特別開帳されており、次に見られるのは33年後とか。唇に朱が残っており何となく可愛く優しげである。小雨がぱらつきだす中、本日最後の教林防へ。

聖徳太子が林の中で教えを説かれたことが名の由来で、本尊は太子自作の石仏。紅葉の季節のみの公開である。紅葉はまだ少し早いもののさすがに手入れされた庭園は見事で、その一部を切り取るように作られた座敷の格子窓は四季の掛け軸として十分に通用する。木々にかけてられた札に普段何気なくよく使う日本語が。意外と仏教とつながっている。仏頂面って???



雨も降ってきたし、早めに休暇村へ。温泉につかってゆっくりした後、17:30、お目当ての近江牛食べ放題バイキングの開始。すき焼き、しゃぶしゃぶ、ステーキ、やわらかで味わいのある近江牛、そのほかおいしい料理を堪能。満足度200%。食後の2次会では腹10分目を超えていたためにアルコール類は半分未消化であったが、よもやま話で盛り上がった。

翌朝、昨夜の雨もあがり好天。8:30出発。今日は、午前中は①安土城跡組と②信長の館組、午後は③近江八幡市内散策組と④水郷巡り組に分かれて楽しんだ後、ラ・コリーナ経由で帰路に。帰りのバスでは恒例の小島クイズで盛り上がり、予定通り17:00近鉄奈良駅前に到着。

参加者の皆さん、おかげさまで大変楽しい二日間になりました。ありがとうございました。



① 安土城跡

高間 祥子

幾重にも重なった見事な石垣を見上げながら、ガイドの中西さんの説明を受け、石段を上り始める。平成の発掘で見つかったという石段の中には道祖神や石仏が刻まれたものもある。長い年月、土に埋もれていたことが伺える。秀吉はじめ家来たちの館跡が点在する、長い長い階段を上りきり、令和の発掘作業の様子を見ながら天主跡に到着。たった3年で焼けてしまった五層七階の天主閣がそびえ立つ姿を想像する。

前日の雨で滑りやすい自然石の階段をスイスイ下られるガイドさんが79才とお聞きしてびっくり。飛鳥マラソンを走ったことがおありとか、奈良の話にも花が咲く。丁寧で面白い説明をいただき、信長の威光や本能寺の変後の緊迫した様子に思いを馳せることができた。

② 安土城天主信長の館

羽尻 嵩

今回の旅行は、聖徳太子の東近江の足跡を巡り、グルメも堪能し、懇親も深められ、すべてが楽しいものでしたが、旅の終わりに「安土城天主信長の館」見学の感想を依頼され、憂鬱。

この館は、スペイン万博の日本館に出展された安土城の天主閣6層に加えて5層も復元させたものです。5層の襖絵には、釈迦の説法図の他に「心の平穩」を説く孔子や老子などの聖人が描かれ、柱には龍の彫刻が刻まれていました。

信長といえば、冷酷非情のイメージなので、心の平安を説く聖人の絵には違和感があり、帰宅してからも疑問が残り、考え続けました。

結論・・・信長の目指したのは、争いのない平和な世の中の建設であった。



その襖絵が信長の本心を示すものであり、信長は理想を実現するために「龍」になったのだ。

彼の生立ちと経歴からすれば納得でしょ？

③ 近江兄弟社について

杉本 登

近江八幡市の街歩きでヴォーリス記念館に行きました。米国人ウィリアム・メレル・ヴォーリスは基督教の伝道士であり、建築家、メンソレータムの事業家としても有名です。私はメンソレと近江兄弟社の名前は知っていましたが、そのいわれは知りませんでした。記念館で説明を聞き、ヴォーリスが愛した近江の地名と基督教の博愛精神で目的に向かって心を一つにする仲間という意味で近江兄弟社と名付けたそうです。ヴォーリスは子爵令嬢一柳満喜子（ひとつやなぎまきこ）と結婚し、後には日本に帰化して一柳米来留（メレル）と改名しました。米国から来て留まるとはいかにも日本を深く愛したヴォーリスらしい命名ですね。多くの建築作品や学校、病院を建て社会福祉にも貢献した彼は近江八幡市名誉市民として今も人々に深く愛されています。

④ 水郷巡り

池田 富子

健脚組の安土城見学には参加できず水郷巡り！！ 乗船した船の船頭さんは水郷巡り一番の古参、ラッキー！！ 船頭さん唄うたって！とせがむも唄はお客さんが歌うんだよと軽くなされた。ゆるりとした川の流れを“ひねもすのたりのたりと”川岸の葦も少なく遠景の山々の紅葉もまだの様。それではと持ち込んだビールと弁当で昼食タイム。嬉しいなー、道の駅の弁当作り立て、おいしそうだったので2つも買って完食。昨夜の近江牛食べ放題で2kg位体重増えてるのになあー、舟沈むでー？ すれ違った他のグループと挨拶かわし、楽しい水郷巡りでした。毎週ならやま花組で草引き婆さんしてるのも楽しいが、旅行も楽しい。お世話役の皆さんお疲れさまでした感謝感謝です。

